

第1章 物流拠点構想の策定について

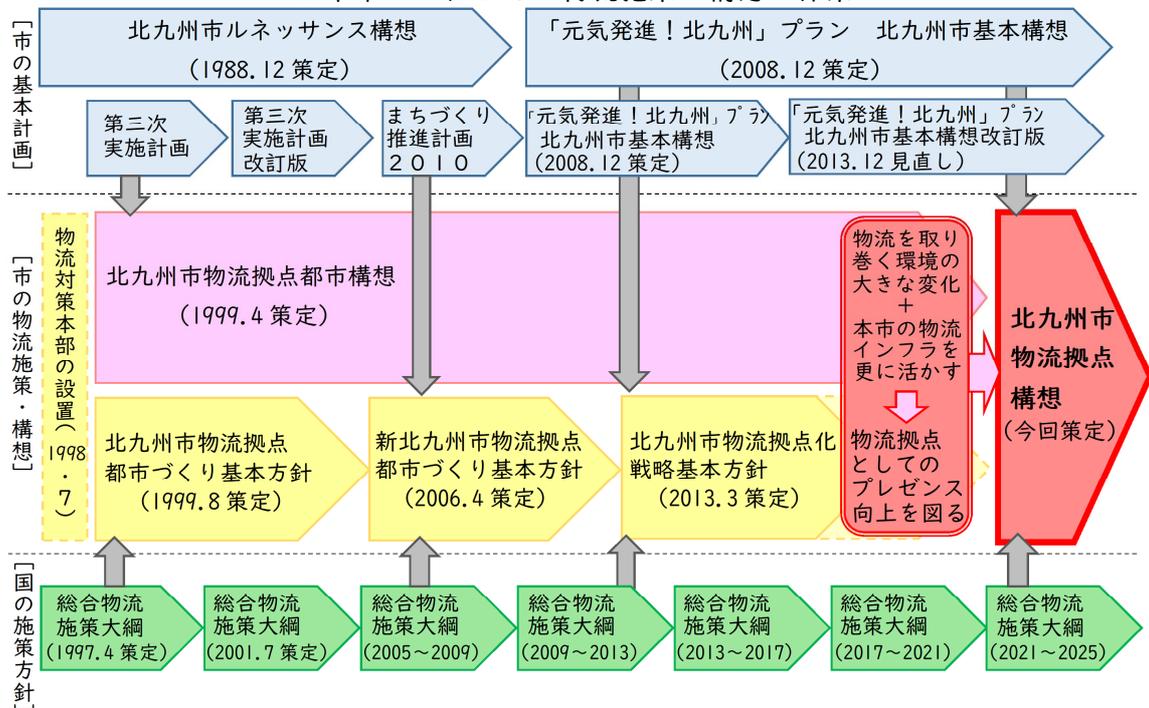
1 物流拠点構想策定の経緯

(1) これまでの本市における物流施策

本市は、アジア大陸に近く、さらに本州と九州の結節点に位置しており、交通の要衝として発展してきました。また、1901年の官営八幡製鐵所操業開始以降、近代日本の工業化を支えるものづくりのまちとして発展してきました。

これらの本市の発展の過程における物流施策の重要性から、本市は1998年に北九州市物流対策本部を設置し、翌1999年に物流の基本戦略である「北九州市物流拠点都市構想」と、施策の方向性を示した「北九州市物流拠点都市づくり基本方針」を策定しました。その後、基本方針については2006年と2013年の2度にわたり見直しを行ってきました。

■本市のこれまでの物流施策・構想の体系



(2) 構想を新たに策定する経緯

上記のように、北九州市では「北九州市物流拠点都市構想」と、その基本方針に則り、これまで物流施策を推進してきました。

一方で、近年、E コマース市場の急拡大による輸送需要の増加や、ドライバー不足が深刻化するなど物流業界を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。また、脱炭素やSDGsなど、新たな時代の要請に対応する必要も生じています。

このような変化に対応しつつ、陸海空の充実した交通網など本市が有する物流拠点としてのポテンシャルをさらに活かすため、新たに「北九州市物流拠点構想」を策定することとしました。

物流は企業活動には欠かせないものであり、市民生活を下支えする重要な産業です。そのような物流は、物流に携わる数多くの民間事業者の方々によって支えられています。

そのため、今回の構想の策定にあたっては、物流に携わる民間事業者の方々の声を反映すべく、ヒアリング調査を重点的に行いました。また、時代の変化に対応した構想とするため、学識経験者などにもアドバイスを求め、構想に反映できるよう努めました。

今回策定する構想に基づき施策を展開することで、本市のさらなる物流拠点化を目指します。

2 主要関連プロジェクトと物流拠点構想との関係性

本市における主要な計画、プロジェクト等について、概要を整理（抜粋）し、これらの取組と物流拠点構想との関わりについて整理します。

(1) 「元気発進!北九州」プラン

○ 基本方針

➤ 産業づくり～元気で人が集まるまちをつくる

大学や研究機関などの知的基盤の充実や産学連携による研究開発機能の強化、設計・デザインや情報通信などの知識サービス産業の振興、港湾や空港、道路をはじめとする交通・物流基盤の充実などにより、付加価値の高いモノづくり産業を実現し、国際競争力を強めます。あわせて、ものづくりを支える物流産業や新たな環境産業などにも力を入れます。

➤ 都市づくり～便利で快適なまちをつくる

競争力のある産業づくりに向け、交通・物流ネットワークの強化を図るとともに、選択と集中により、必要性の高い都市基盤の整備にも取り組み、国際物流拠点の形成を目指します。

○ 基本計画

➤ 交通・物流ネットワークの強化

港湾や空港、鉄道ターミナルなど、本市がこれまで整備してきた陸海空の多様な輸送モードと充実した高速道路網を十分活かすため、環状放射型自動車専用道路ネットワークや交通・物流拠点間を結ぶ幹線道路網の整備を推進していきます。

➤ 交通・物流基盤の整備

本市における産業の競争力を強化し、市民の暮らしを支えるため、主要な幹線道路や国道3号黒崎バイパス、都市計画道路戸畑枝光線などすでに取り組んでいる交通・物流ネットワークの早期完成を図ります。また、将来にわたり必要と考えられる基盤整備を選択と集中により進め、国際物流拠点の形成を目指します。

① 港湾の機能強化

② 北九州空港の整備・充実

(2) 北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）

○ 基本目標

➤ I 北九州市に魅力あるしごとをつくり、安心して働けるようにする

○ 基本的方向

アジアに近く九州の玄関口である地理的特性に加え、24 時間利用可能な北九州空港や東九州自動車道、黒崎バイパス等の物流ネットワークといった恵まれた社会資本を活用し、交流人口の増加や、物流の拠点化につながる施策を進めていきます。

- ロボット・自動車などリーディング産業の振興
 - 航空関連産業の拠点化
- 風力発電関連産業の総合拠点の形成
- 北九州空港の大規模な集貨・集客
 - 北九州空港の利用促進
 - 北九州空港のアクセス強化
 - 北九州空港の機能拡充
- さらなる物流拠点化の推進・北九州港の利用促進
 - 北九州港の利用促進

(3) 北九州市 SDGs未来都市計画

○ 3つの柱

- 経済「人と環境の調和により、新たな産業を拓く」

○ 基本的な考え方

- 地域経済における自律的好循環の形成

○ 具体的な取組

- 物流拠点都市としてのプレゼンス向上
 - 陸海空全ての輸送モードに対応できる優位性を活かし、モーダルシフトの推進等により、働き方改革や環境負荷低減などにもつながるニューノーマルの時代にふさわしい物流拠点都市としてのプレゼンスを高めます。

(4) 北九州市都市計画マスタープラン

○ 都市計画の目標と方針

- にぎわいと活力があるまちをつくる
 - 都市活力の再生に向けて、産業活動及び人、もの、情報の交流が活発な、“にぎわいと活力のあるまちづくり”を目指します。
 - 既存の工業や商業の振興を図るとともに、アジアの先端産業都市の実現を目指した、次世代産業の育成や特区などを活かした産業の立地及び振興を促進します。
 - 多くの人々、産業、情報などの国際的な交流を活発にするために、交流が集中する拠点地区の形成や、交通や情報のネットワークなどの交流機能の強化に向けたまちづくりを進めます。
- 環境にやさしいまちをつくる
 - まちづくり全般において、地域の身近な環境から地球環境まで、あらゆる面で環境に配慮していく、“環境にやさしいまちづくり”を目指します。
 - 豊富な都市基盤や公共施設、土地資源や産業集積などを活用し、効率的・効果的な都市整備を進めていきます。

(5) 北九州市道路整備中長期戦略－魅力的で持続可能なみちづくり－

○ みちづくりの方向性

- コンセプト 魅力的で持続可能なみちづくり
 - ビジョン 1 都市の発展と持続を支えるみちづくり
 - ビジョン 2 安全・安心で住みよいまちを支えるみちづくり
 - ビジョン 3 魅力あふれるまちを支えるみちづくり

(6) 北九州港長期構想

○ 理念

- 「ものづくりを支え、まちを元気にする」
- 「人と地球にやさしく、世界の環境首都を支える」

○ 将来像

- 「ものづくり産業を支える物流基盤としての港」
- 「災害に強く、いつも安全で、市民生活や企業活動を支える港」
- 「環境首都(環境モデル都市)にふさわしい港」
- 「多くの人が憩い・賑わう港」

(7) 北九州空港将来ビジョン

○ 「福岡空港と北九州空港の役割分担と相互補完」を考え方の基本とし、3つの将来像の実現を目指す。

- 将来像1 九州・西中国の物流拠点空港【物流】
- 将来像2 北部九州の活発な交流を支える空港【交流】
- 将来像3 航空関連産業の拠点空港【産業】

(8) 北九州市地球温暖化対策実行計画

○ 基本的な考え方

- 環境と経済の好循環による脱炭素化を軸に、都市や企業の価値・競争力を高め、快適で災害にも強く、誰もが暮らしやすい社会を実現します

○ 温室効果ガスの削減目標

- 本市における「2050年のゼロカーボンシティ」の表明を踏まえ、2050年の目指すべき姿(ゴール)として、市内の温室効果ガス排出の実質ゼロを目指し、2030年度の削減目標(ターゲット)として、2013年度比 47%以上削減することを掲げています。

○ 脱炭素社会の実現に向けた5つの方向性

- 次の5つの方向性で2050年の脱炭素社会の実現を目指します
 - I エネルギーの脱炭素化
 - II イノベーションの推進
 - III ライフスタイルの変革
 - IV 気候変動に適応する強靱なまち
 - V 国際貢献

(9) 主要な計画・プロジェクト等との関係性

このように、本市の基本構想・基本計画である「元気発進!北九州」プランをはじめとする各種計画等において、まちづくりの重要な観点として、物流振興の考え方が組み込まれています。

今回策定する「北九州市物流拠点構想」は、他の計画と関連しながら、本市の物流施策に関する基本的な考え方や、実施する施策を具体化する部門別計画の1つに位置付けられます。

■主要な計画・プロジェクト等との関係図

